JAPAN SCIENCE FICTION CONVENTION #59 @FUKUSHIMA

PROGRESS REPORT Vol.002

第59回日本SF大会
F-CON
エフコン

2020.08.22-23

FUKUSHIMA Bandai Atami Onsen
Hotel HANANOYU

Illustration : SHIRONAGASU WORKS

F-CON ESSAY 002

福島のおもいで

実に有意義な援農体験であった――

笹本 祐一

福島で思い出すのは秋山さんのところに援農に行ったこと。

説明しよう。まだ前世紀の一九九九年。宇宙作家クラブを立ち上げた我々は、主に松浦晋也がどこからか探して来る講師を頼んで月一ペースの勉強会を行っていた。そのうち一人が日本最初の宇宙飛行士である秋山豊寛さんだったのである。

当時まだ現役だったソ連の宇宙ステーション、ミールは夏の男子体育系部室のにおいがしたとか話もいろいろ強烈だったんだが、その時に秋山さん、援農に来ないかと誘ってくれた。

宇宙飛行する前から農業に興味があり、人は土と共に生きるべきであるという信念を持っていた秋山さん、TBSを退社後に福島で農業をはじめたのである。で、夏期の繁農期に手伝いに来てくれればもっといろいろ話ししたげるよ、とのこと。

こんな楽しそうな話、乗らないわけがない。かくして、ノストラダムスの大予言成就の気配もいっこうに感じられない一九九九年八月、笹本は松浦晋也、野尻抱介、デビューまだ三年目の小川一水などと共に郡山から太平洋側に向かう単線ローカルな磐越東線で菅谷駅に集ったのであった。

そもそもなぜ福島なのか。

かねてから農業に興味があった秋山さん、どこなら新規に入植して農業が出来るかどうか、九州から順に調べていったそうな。

今ほど少子高齢化、過疎化が進んでいない九〇年代。先祖代々の土と共に生きてきた農業従事者は新参者に対する当たりが厳しくて、なんとかここなら出来そうと思ったのが関西、関東も過ぎた東北は福島だったそうな。

これが北海道まで来ると開拓者がぞろぞろいますからねえ。なにか新規に事業はじめると言った場合、東京だとあれこれ理由付けて止める人が出てくるのに、北海道だと誰も止めないんだ。かつて東京に住んでいて、今札幌に住んでる笹本の体感です。

選ばれた土地は、福島県田村市。近所には鍾乳洞として有名なあぶくま洞があり、もっと近くに入水鍾乳洞がある。「じゅすい」ではない。「いりみず」と読む。

秋山さんの家は山また山の山の奥、いい天気の中、昼からお邪魔するといきなり「いらっしゃい、ビールにしますか？　それともポカリスエット？」と勧められ、話聞きに来たのに昼間っからビール呑んだくれるのもなんだかなあと思いつつあまりにも天気と景色がいいんでビール頂きつつ話を聞く。昼間は暑いから、農作業は陽が傾いて涼しくなってからやるんだそうな。

松浦「たぶん秋山さん、ワシントン駐在時代に昼ビール覚えたんじゃないかな」

ビールの美味さよりも、つまみに出て来た野菜のうまさが印象的であった。農家に限らず一次産業は現場でいちばん美味しいもの食べられる仕事だと思っていたが、まさに。

青い革表紙の小さな宇宙飛行士証を見せてもらったのもこの時だった。国際航空連盟発行、ナンバー085。表紙をいれて八ページほどの、秋山氏の白黒写真入り、1990年12月発行、ロシア語と英語でこの者宇宙飛行士につき各国の協力を、みたいな文章が書いてある。もちろん実際に宇宙飛行に携行され、ソユーズロケットでミールに行って地上に戻ってきたもの。

「これ貰ったときは嬉しかったねえ」

宇宙飛行士証は、正規の宇宙飛行士訓練を完了した者にしか発行されない。秋山さんはモスクワ郊外の星の街で一年以上に渡る訓練を完了

し、正式に宇宙飛行士証を授与されている。

まったく同じ青表紙の宇宙飛行士証を、モスクワの宇宙飛行士記念博物館で見たことがある。キリル文字の本人サインはガガーリン。人類初の宇宙飛行士となったガガーリンの宇宙飛行士証は大事そうにガラスケースの中に飾られていて、同じデザインだと思ったっけ。

もし、一九八六年のチャレンジャー事故がなければ、日本人初の宇宙飛行士は八八年のスペースシャトルによって毛利衛によって行なわれるはずだった。しかし、事故のためにスペースシャトル再開はずるずると遅れた。

毛利衛が乗り込み、ＮＡＳＤＡ初の有人宇宙ミッションとなったＳＴＳ47の飛行は一九九二年九月。

伝聞だが、ＴＢＳ以前に日本人宇宙飛行士を「ソユーズに乗せませんか？」という打診はソ連からあったという。「いや、スペースシャトルがありますから」と断ったのが宇宙開発委員会かＮＡＳＤＡなのかそれとももっと上層部の判断だったのか笹本は知らない。もしこの時、情報収集と経験値向上も見込んでソ連に接近しておけば、日本の有人宇宙飛行もいろいろ違ったことになったかも知れない。

日本人初の有人宇宙飛行がＴＢＳという民間企業の委託でロシアにより行なわれたという事実は、笹本の中では日本の宇宙開発において最初に民が官を追い越した事例として認識されている。正規の宇宙飛行士訓練を受けた日本人が、スペースシャトルに乗るよりはるかに安く宇宙に行って来たんだ。おまけに、テレビ放送のために多量の放送機材がそれまで鉄のカーテンに閉ざされていたソ連に持ち込まれ、それまで名前だけは知っていたあるいは名前も知らなかった現場の風景がお茶の間のテレビに映し出された。

中継のための放送機材はもちろんミールにも持ち込まれた。放送機材はそのまま置いてきて、秋山さんのミール滞在以降は宇宙ステーションからの画質がアップしたという。

いろいろと興味深い話を聞き、夕方からは農作業を手伝う。秋山さんはそれぞれの作業についてそれがなぜ必要でどういう手順で行うべきか手際良く説明してくれるんで、やりやすい。

「第二次世界大戦の帰趨を決めたのはジープとＤＣ３とバズーカって言われるけど、日本の農業に軽トラックが果たした役割は第二次大戦のジープ以上だと思ってる」という言葉は、働いてる軽トラ見るたんびに思い出す。

その夜は近所に取った宿に引き揚げ、野尻の手引きで星の村天文台を夜間訪問。二〇時半頃に東から西にかなり大きな光が飛んでいってあとで確認してみたらミールだったとか、実に有意義な援農体験であった。

さて、お元気かしら？　とひっさしぶりに郡山から菅谷に到る磐越東線周りの地図を眺めてみたら、あらあ、福島第一原子力発電所から直線距離三五キロ？　秋山さんの家は直線で三二キロ、東北大震災のあとの事故で、念のために持っていた放射線警報器が鳴り出し、しかたなく避難したという。

その後群馬、長野と移り住み、現在は京都造形芸術大学で教授やってるって。

プログレスレポートにエッセイ書いてーと京都在住の菅浩江さんから電話貰って当時の記録確認してみたら当時の秋山さんの最寄り駅が菅谷。今は菅さんと同じ京都在住とは、秋山さんとはしばらくお会いできてないけどなんかいろいろ縁がまだ繋がってる感じがするわねえ。

当時は東京住まいだった笹本は現在札幌在住、宇宙開発については取材する立場から大樹町ＩＳＴのロケット打ち上げのたんびに現地に出向いて報道対応、なんかあれば新聞社やテレビ局のスタッフに説明する立場になっている。二〇一九年には弾道飛行とはいえロケットがやっと宇宙空間に定義される高度一〇〇キロを突破、二〇年も打ち上げと衛星軌道突入を目指す開発が続く予定である。

本業も、カドカワのミニスカ宇宙海賊とハヤカワの放課後地球防衛軍、他にもいろいろ予定しております。旧年も新年もよろしくおねがいします。

【参照 URL】

入水鍾乳洞 https://abukumado.com/see/irimizu

星の村天文台 http://www.city.tamura.lg.jp/soshiki/20/

企画

基調講演
「サイエンスが紡ぐ未来社会」

SFから見る福島の未来
ZABADAKライブ
偽科学シンポジウム
加藤直之のVRでお絵描き&VR作品鑑賞会
乗用ドローン試乗展示会
統合医療とSF／名作SFと現代科学
大規模津波災害にSF的防衛対策を考えてみた。
オンラインゲーム企画／VRの今
テルミンvsテスラコイルギターバトル
話題のアニメ監督対談「どんなSFに影響を受けたか」
SFアニメ上映会（作品選定中）
ラノベ作家企画
「軌道エレベーター」プレゼンテーション

※企画は検討中のものです。

自主企画募集

F-CONでの自主企画を募集します。企画をやるぜという方はどしどしご応募下さい。
企画時間や場所に関しては場所に限りがありますので、ご希望に添えない場合もあります。

ご応募は、下記のフォームをコピーしてメール頂くか、公式サイトの応募フォームから送信して下さい。

応募フォーム

□企画名［　　］
□企画内容［　　］
□企画責任者［　　］
□Ｅメールアドレス［　　@　　］
□電話番号［　　］
□参加ゲストの有無　ゲスト有りの場合ゲスト名［　　］
□参加予想人数［　　］名
□場所の希望［会議室／座敷（大広間含む）／自分の部屋］
□質問［　　］

ボランティアスタッフ募集

企画スタッフ（参加者から募集）

企画段階から協力できるかた。
対外交渉もしていただく可能性があります（協力企業との連絡など）。
LINEでの連絡やLINE通話会議に参加できることが望ましい。

当日スタッフ（参加者から募集）

当日の機材準備や受付など、メインスタッフの指示にしたがって動いてくださるかた。
一日目のみ、二日目のみ、両日とも、などのご希望に沿います。
宿泊されるかたは夜の企画もお手伝いいただきます。

現地スタッフ

大会に参加はしないけれど、当日日中のスタッフとしてご協力いただけるかた。
宿泊や夕食はご提供できませんので、夕食前には作業終了となります（時間的に中高生もOK）。
一日目のみ、二日目のみ、両日とも、などのご希望に沿います。

その他のご説明

① 大会を円滑に運営することがスタッフの役目ですので、ご希望の企画を見られるとは限りません。シフトを組む際にはなるべくご要望を叶えたいとは思っておりますが、どうしても見たい企画があるのでしたら、「その企画の担当をする」と名乗りを上げる、または個人対個人で直接シフトを交代する（この場合、必ずメインスタッフに申し出てください）などの工夫をお願いします。

② 得意なこと（ステージ進行ができる、対企業で丁寧な事務応対ができる、機材のセッティングができる、Excelなどでデータ管理ができる）等々ありましたら、どうかお知らせくださいませ。

③ 当日スタッフ、現地スタッフに関しては、イベント開催未経験者でも充分にご活躍いただけます。例を挙げれば、「受付をするので、これとこれをチェックしてこれを渡す」、「いまからこのゲストを企画部屋まで誘導する」「この部屋にこの機材が揃っているかチェックする」などです。

以上を踏まえまして、これまでご登録いただいていた種別を変更される場合は、大会メール sffcon@gmail.com まで（IDのわかるかたはそれも添えて）ご連絡ください。

なお、現状ではメインスタッフ（直接運営する幹部）間で各種の調整をおこなっております。
企画スタッフの方々には、のちほど詳しい役割等をご連絡いたします。
当日・現地スタッフのみなさまは、具体的なお仕事内容が決まるのがまだ先になりますので、それまで楽しみにお待ちくださいませ。

みなさんのお力で福島を、そしてF-CONを盛り上げたいと思っております。
ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

ご応募は、下記のフォームをコピーしてメール頂くか、公式サイトの応募フォームから送信して下さい。

応募フォーム

□氏名［　　］　□年齢［　　］
□住所［　　］
□Eメールアドレス［　　@　　］
□電話番号［　　］
□希望するスタッフの種類
　① 企画スタッフ（大会参加者で、準備段階から企画にかかわるお仕事をしていただきます。場合によっては対外交渉をしていただく可能性もあります）
　② 当日スタッフ（大会参加者で、当日の受付や機材位置など簡単なお仕事を指示に従ってしていただきます）
　③ 現地スタッフ（大会には参加せず、夕食前には作業終了となる簡単なお仕事を指示に従ってしていただきます）
□当日スタッフ・現地スタッフの協力日
　① 1日目【8/22（土）】　② 2日目【8/23（日）】　③ 2日間共【8/22（土）、23（日）】
□質問［　　］

大会概要

開催日　2020年（令和2年）8月22日（土）～23日（日）
前泊8月21日（金）、後泊8月23日（日）

開催場所　〒963-1309 福島県郡山市熱海町熱海5丁目8-60「ホテル 華の湯」
http://www.hotelhananoyu.jp/

大会形式　1泊2日の完全合宿型ですが、当日の日帰り参加も可能です。
改装したばかりの豪華な会場を、ホール・会議室・居酒屋までふんだんに使い、数多くの企画を提供します。また、企画によっては、各部屋や野外が会場になります。

主催　第59回日本SF大会「F-CON」実行委員会　**協力**　ホテル 華の湯

前泊・後泊　「ホテル華の湯」にご宿泊いただく前泊後泊企画あります。

前泊オプショナルツアー／後泊オプショナルツアー＜各先着50人＞

オプショナルツアーは、バスを使用します。
前泊オプショナルツアー：午前10時郡山集合予定。後泊オプショナルツアー：午後５時郡山解散予定。
オプショナルツアーの行き先は、以下の候補が挙がっておりますが、すべて未定です。決定次第お知らせします。その時点での変更や取り消しも承ります。
候補地：【ふくしま復興関連施設・廃炉見学・円谷英二ミュージアム・福島ガイナ“さくら遊学舎”など】

参加費

宿泊参加費

参加区分	料金(税込)	星雲賞投票権	会場入場
大人(18歳以上)	¥30,000	○	○
中人(中・高生)	¥20,000	○	○
小人(小学生)	¥12,000	○	○
幼児(3歳以上)	¥8,000	×	○
乳児(2歳)施設使用料(食事なし)	¥3,300	×	○
2歳未満(食事なし)	無料	×	○
介助者・ヘルパー	¥16,000	×	○

日帰り参加費

	参加区分	日帰り両日料金（税込）	日帰り一日料金（税込）	星雲賞投票権	会場入場
事前申し込み	大人(18歳以上)	¥15,000	¥8,000	○	○
	中人(中・高生)	¥3,000	¥2,000	○	○
	小人(小学生)	無料	無料	○	○
	未就学児	無料	無料	×	○
	介助者・ヘルパー	無料	無料	×	○
当日券	大人(18歳以上)	¥18,000	¥8,000	×	○
	中人(中・高生)	¥4,000	¥2,000	×	○
	小人(小学生)	無料	無料	×	○
	未就学児	無料	無料	×	○
	介助者・ヘルパー	無料	無料	×	○
登録参加		¥4,000		×	×

前泊（21日）／後泊（23日）費（共通）

参加区分	料金(税込)
大人(中学生以上)	各¥15,000
小人(小学生)	各¥10,000
幼児(3歳以上)	各¥7,500
乳児(2歳)施設使用料(食事なし)	各¥3,300
2歳未満(食事なし)	無料
介助者・ヘルパー	各¥15,000

オプショナルツアー参加費

前泊オプショナルツアー(21日)	¥5,000
後泊オプショナルツアー(24日)	¥5,000

○ 介助者・ヘルパーは障害者手帳提示をお願いします。要介助者一名につき、一名までが原則です。
○ 日帰り参加の参加時間は、一日目：開会式から 20 時まで。
　二日目：午前９時から閉会式までです。
○ 登録参加は、大会自体には参加できません。プログレスレポートや当日の配布物の受け取り・星雲賞の投票資格は得られます。
○ ゲストの皆さんには別途案内をいたします。

お支払い方法

お振込先　ゆうちょ銀行
ゆうちょから　18210-39714131
他行より　（店名）八二八店（店番）828（普通預金）3971413
口座名義　エフコン実行委員会　会計　ワタナベヤエコ

クレジットカード、コンビニ払い、Pay-easy決済の場合
公式ウェブサイトからお申し込み下さい。

磐梯熱海温泉「華の湯」への道

関東と関西を起点とした会場までの主なルートです。
費用に関しては、購入時期や旅行会社等により異なります。
また、移動時間は目安です。

東京発 from TOKYO

新幹線　約2時間　8,780円

東京駅 →（東北新幹線 約1時間20分）→ 郡山駅（乗り換え）→（磐梯西線快速 約14分）→ 磐梯熱海駅 →（送迎バス タクシー 約8分）→ 磐梯熱海温泉「ホテル華の湯」

自家用車　約2時間40分　通常5,590円/ETC3,910円

浦和IC →（浦和IC（東北道）➡郡山JCT（磐梯道）➡磐梯熱海IC出口 約2時間半）→ 磐梯熱海IC →（一般道 約10分）→ 磐梯熱海温泉「ホテル華の湯」

大阪発 from OSAKA

新幹線　約5時間　約21,500円

新大阪駅 →（東海道新幹線 約2時間半）→ 東京駅（乗り換え）→（東北新幹線 約1時間20分）→ 郡山駅（乗り換え）→（磐梯西線快速 約14分）→ 磐梯熱海駅 →（送迎バス タクシー 約8分）→ 磐梯熱海温泉「ホテル華の湯」

夜行バス　約10~12時間　約8,000~16,000円

大阪市内 →（各社 約10～12時間）→ 郡山駅 → 磐梯熱海駅 → 磐梯熱海温泉「ホテル華の湯」

航空機　【リムジンバス】約3時間　約8,500~16,000円
【レンタカー】約2時間半~3時間
約6,500~14,500円+レンタカー代

伊丹空港 ITM →（ANA/IBEX 約1時間5分）→ 福島空港 FKS →（リムジンバス 約40分）→ 郡山駅 → 磐梯熱海駅 → 磐梯熱海温泉「ホテル華の湯」

伊丹空港 ITM →（ANA/IBEX 約1時間5分）→ 福島空港 FKS →（レンタカー（東北自動車道経由） 約45分）→ 磐梯熱海温泉「ホテル華の湯」

自家用車　約8時間　通常16,620円/ETC11,420円

吹田IC →（吹田IC（名神）➡米原JCT（北陸自動車道）➡長岡JCT➡新潟中央JCT（磐梯自動車道）➡磐梯熱海IC出口 約8時間）→ 磐梯熱海IC →（一般道 約10分）→ 磐梯熱海温泉「ホテル華の湯」

スタッフ会議

東京、大阪にてスタッフ会議を行っています。
開催日時、会場などは、公式サイト、ツイッター等で告知します。
事前連絡、申し込みなどは不要ですので、
参加希望の方は会場まで直接おいで下さい。

奥付

SNSでは随時情報を告知していきます。
なのでフォローやイイネをお願いします。
ここでの質問などにもお答えしていきます。
なるべく迅速に！　頑張ります。

twitter
https://twitter.com/SF_FCON

Facebook
「F-CON」イベントページ

[企画・発行]　〒963-7725
福島県田村郡三春町大字鷹巣字瀬山213番地
株式会社福島ガイナ内
第59回日本SF大会「F-CON」実行委員会
[問い合わせメールアドレス]　sffcon@gmail.com　[公式サイト]　https://sf-fcon.com